玉梯小稿

12

川合文庫

源氏物語玉乃小櫛 四ノ巻

此巻ハ、湖月抄の本と、これをもて異本ども、よく、よみくらべて、
湖月抄のゝ誤きゝ誤のゝ、古本ゝ、ゝかゝ、よたがゝるかぎりをゝ、ゝまこと、
そのよたゝ、ゝきゝ、ゝ、ゝくべ、ゝ、ゝゝゝゝ、湖月抄方をも、古ゝ、ゝ、
ゝゝふちひゝ、ゝゝつ、ゝゝゝ、湖、ゝ、ゝゝゝ、ゝゝ、ゝ、
ゝゝも、ゝのゝ、ゝゝゝ、ゝゝゝゝ、ゝゝゝゝ、ゝゝ、
考へ合をゝゝゝむゝ、ハ、又ゝ、ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ、
くゝゝきハ、ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

畑さるもとハ・学ふ行ゐ祢〜えろまゐる本ゆて・人のえるゑ・おゐ〜ハこの
本ゆゑバぞかし・

桐壺巻

〜ふえゆるさせ給ひぞ 七オ
のゝ 十八オ いゝゆゑ 十九オ
れんざ〜ゆちわやゆ〜 十五オ
ゐるざのれ座 同
ゆえ思ふ行ゐ世給ひ 同

もゝめゆふ行ゐて給ひ
ひ多へ行る 十四オ
おそ〜まさ毋〜ゆハ 同ウ
れ〜ゐちゑ〜 十四ア
れこそ〜 十六ウ
れい〜 十七オ
ゐ〜ゐ〜ゐ〜 十八ウ
ゑゐれきゐんざ〜 十ウ
ゐ〜ゐ〜なゐて 十一ウ

箒木巻

ゐゐいゐの 三オ
ゆゐ〜ゐゐ 四オ
ゐ〜ゐ〜ゐゐ 五ウ

非参議の三位位ゐ

もの 七オ
ゆゐ〜ゐゐ 八オ
やゐて行ひゐて 十三ウ
まゐゐゐハのゐふ 十九オ
ゆゆかゐ〜ゐ 十一ウ
ゐゐゐ〜ゐ〜ゐ 十一ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十五ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十七ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十七ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十七ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十八ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十九ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十九ウ
ゐ〜ゐ〜ゐ 十九

あや〳〵やうかえりて　いぶかせん　ふ　家〳〵ぬぎ　さべ
〳〵ゆりそえゆううたきぬを　いとふるて　こよひうへや　拍もえ
ぬぬぎ　ゆうがをふるひのやうふ
ゆうがをふるひのやうふ

久敷さ

大江の色のおとのいつ〳〵　えぶへ行ぬるバ　吹日々日の秋ぬ〳〵
かとを行べくわ行　あそれとおぶ〳〵ぬぬき　ふふハべろいそぎて
ふ車をぞえま〳〵　ひをて秋ぬぞ　まつ〳〵がとあぶゆる
かく〳〵のとまふやぶふいふ　いとつし〳〵ふへるバ　そさま〳〵うぞふ
ひをる　女のふひとるバ　ざしし秋ふへいるし　まひ拍うと〳〵
秋ゆく　風のやゝ　久〳〵さふ秋と　あわいふ〳〵　ま〳〵と

ふひのつ〳〵ふる　右近をぞいぶ　うちもまる秋ふも
内ふきこう色〳〵　行やうやとむつ〳〵　さだうふをもて
まぶ〳〵ふとふ　ものやう〳〵　ちかる海ぶふ秋ふと
ふひふへ出ばバ　ふふふもものふ　いとぶうつ〳〵ぎ秋ふ

恋紫さ

おふう秋ひりとバ　おぶ秋きさとだて　ふふ秋ぶくそさ秋ぶ〳〵
行る秋ろとなゆとバ　恋ふんふて　けみふぶ海ふをやとは
色やたれ人なり　なぶ〳〵さえふと　ふふふをまてもねふひの
きふちぬやうふやふて　なづふ〳〵きとぶ　家ふ〳〵かふぶ
まぶちふ〳〵ふ人の　れわりきふいぶ〳〵　ふ〳〵ふ秋ハぬわぶふ

いく〻（四ウ）　おぐし結へらん（廿五オ）　むせうつりのふさるも（廿八オ）　さきぐ（古ナシ）ぱせう
そこつの（廿一オ）　いく〻（古ナシ）ねがし（廿五オ）　そうがさも（四）　ちひて（古ナシ）いと（廿八オ）　ぶしぬば（古ニ）四
二うりだかり（古ナシ）（四十ウ）　ちもだうへ（古ヒ）四　そまつり結へそふ（四十一ウ）　そひめつふより（古ナシ）四
ゆがそ〻とおぐいて（古ヒ）（四十二オ）　かそ〻がれ〻　ゆめるく〻の結ひ世（古ニ）（四十三ウ）　ぶひ結へ出（古ヒ）
てきん（四十五ウ）　夜ふ〻ふを出させ（古ニ）（四十六オ）　孫ものつ（古ナシ）ぶ（四ウ）　つりや〻とあぐて（くた）（四十七オ）
おくと　ゆ〻しぬつぐ（古ナシ）（四十八オ）　女房がども（四ウ）　かのき〻（古ナシ）人を（四十九オ）　こつるぎ〻この（古ナシ）
ふぞ（五十一オ）　とゆりふ〻〻〻（古ナシ）ハ（四）　えのこのいく〻さ〻ぞ（四ウ）　まるかるふい（ゆ古ニ）
み〻〻（五十二ウ）

末摘花巻

おかりうきとと（よ古）三オ　のこりぬのへるを（四ウ）　ぶひ結へる〻（古ナシ）（四オ）　よのまつひふ（る古ニ）五オ

まかで結ひ〻ぶやぐて（古ナシ）七ウ　えもり結をぬふ（ミ古）四　れかり〻ぐもめして（古ナシ）九オ
ゆ〻ちけ〻ちやハ（きを古）十二オ　ゆ〻をまひ（さ古）十五オ　れをまふかん（古）ぶ世あぐ〻（四ウ）
おく〻ゆ〻〻ぐ（と古）十六ウ　いく〻ろびる〻ぐ（古ナシ）ゆ〻の（十七ウ）　よ〻よべ〻を結り（古ナシ）十九オ
雲ゐまち（ん古）むかぐ（廿オ）　なきぬぐり（る古ニ）ぶ（廿一オ）　ぬひ世ぶ命婦も（狩古ニ）廿二オ
ん〻ゆ〻ん〻ち（古ナシ）四ウ　い〻かり〻（をう古）かり〻（古）ぬごりふ（古ウ）　女のれさ〻ぐ〻ふハ（古ナシ）四
なぐ〻（ウ古ニ）廿四ウ　えまうれさ〻ぐ〻（る古）廿六オ　よりてれ祝のうえ世ゆ〻ふ
みちゆ〻ふ紙をゆ〻し（古ナシ）てのぐひめへぐ（四）

紅葉賀巻

結結のやうふをきひろ〻て（四オ）　ぎさせ結ふをき〻ぺ（古ナシ）もとこ〻ろりと（四ウ）
あひる山の松風（古ナシ）五オ　さるべきぐるもよりてぶ（の古ニ）六オ　めぷんづきれさふ（れ古ニ）四ウ

[illegible]

へど日 おぐ[illegible]ふおいいと[illegible]九オ ろりろに[illegible]つる日ウ 同じ[illegible]と第中[illegible]十二オ

あやふげふ[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]ば十オ れ[illegible]ぎさめふ[illegible]おも[illegible]ひつ[illegible]そど十二ウ [illegible]とを[illegible]をや日

よりぬ[illegible]へふ十五オ いと[illegible]けふ十六ウ 初[illegible]ぬ[illegible]ぬね日 酒おもひ[illegible]ぎる十七ウ

りろとふ[illegible]そ[illegible]十八オ ちりぬ[illegible]ぬ[illegible]むり[illegible]十九オ こきでん[illegible]そいく[illegible]二十ウ

花宴巻

さりろとあぐ[illegible]ぐ[illegible]のく[illegible]ば六オ そういふりとも[illegible]ひわ[illegible]ぞ日ウ 柳花

花なむ[illegible]まで[illegible]ふ七オ [illegible]てれ[illegible]ぬひてまぐも十一ウ [illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]まづ十三オ

[illegible]

いと[illegible]ふも[illegible]ふ[illegible]る六オ きし[illegible]たも日ウ [illegible]まぐひつ九オ あぐふぐ

[illegible]を[illegible]ぐも七ウ あぐいく[illegible]ぬれんおきてふ日 いそぐえ[illegible]る[illegible]ぞく十二ウ

[illegible]の[illegible]ぬ日 人ふと[illegible]ぐ[illegible]ぐ十四ウ あぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ十七ウ [illegible]ぐ十八ウ

ふく[illegible]十六オ ふく[illegible]ぬれかぐふ[illegible]ぐ十七オ [illegible]ぐ[illegible]ぐ十九オ [illegible]ぐ[illegible]ぐふ日ウ

中ハゆき[illegible]ぐりても十八ウ のく[illegible]ぬき二十オ [illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ日

えんふのく[illegible]ぐ中ふもわ[illegible]ぬ[illegible]ぬを[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

のぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法合卷

院[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松風卷

[illegible]

[illegible]

蓬雲卷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さう事を色かやうふ（古ナシ）日うそせ給ふてをぶふ十七オ 鶏きうう給つるう 仏古 日ウ
うせ給ちんこそ（人〳〵日そそ 古三）あぶ〳〵 野ぎく十八オ 内ゑさ野ぐさるべき日ウ 手紙人のけ（古ナシ）
さゑを十九オ いとそうしがう〳〵（て古三）うりてハ廿二オ 〳〵〳〵ハ（古ナシ）しの廿三オ 法くまし
くて（古ナシ）ふ〳〵も廿六ウ 手きわやとう（古ナシ）ひきうむそ廿七オ 内まぐ（ゑ古）ちふそどを日
ゆづ〳〵を給ちむことをど（古ナシ）あぶし廿八オ こひきうえ（さ仮 古三）ふ廿九ウ さうう内ちんむ。。。
。。（古ナシ）よるとうりぐ〳〵ふ卅ウ 給りかし（ク古）とす〳〵（古ナシ）めふふ卅三ウ 内ふちひのうり（古ナシ）ちさへ卅四ウ
ゆ〳〵〳〵（古ナシ）すし日 あぶ〳〵ちう（を古）給ふ卅五オ いく人すてる（古ナシ）ら日 和むの
ちて（古ナシ）野やすぎぶ

和歌巻

時〳〵えるぐふ（ぶふ古）卅オ まえやうふさい〳〵（京）六オ うち給ふ（ゑ古三）よりひの日ウ あぶし

法ぐきう（け古）流七オ 和歌内あぶめ給ふりる（古ナシ）日 さぶゑ人をさしを（の古）八ウ
女五ゑ野ど色（ゑ古）九オ いぐそ給ひ（古ナシ）女れ十一オ つを野きを（さ古）十六オ うう給ぢう
らのと（古ナシ）日いく。ついゑし（ど古）十七オ よそちれうう野ぐとうちえで（古ナシ）日 うろぐ〳〵
うえなると（ろ古）十八ウ さと号ふゑハいろ〳〵（古ナシ）廿二ウ 人ふよりゑく野るべき（古ナシ）廿三オ

をしめす巻

新歌院（古ナシ）ふち 二オ ち〳〵よう内て（古ナシ）日 うちもゆるむ（グ古）日ウ ゆうう。野ろん（う古）五オ
文方をさ（古ナシ）めぶふも 六オ つく〳〵給ゆうり〳〵ふ（と中ふ古）八ウ ゑ〳〵ぶべき人うきぶ（伝古）おぶ〳〵ぞ十二オ
い〳〵ぐ（古ナシ）ぎこ（古ナシ）海しめふ（日ウ）そ（う古）ふまぜて（ナ古）十四ウ ゑ〳〵（う古）きる（古ナシ）日 ゑとつ和ゑて（古ナシ）日
え〳〵〳〵つ（古ナシ）うる野べ（古ナシ）十六ウ 毎へる人のいうで（古ナシ）十七オ そむみめ（め古）ぬる十八ウ おいぐ〳〵
ちぬど海おう〳〵〳〵〳〵〳〵つ（古ナシ）こうかし（こ古）十九オ きんのかん野〳〵（孫ノ 古）ぐ十九オ ざえちわどう（〳〵古三）日ウ

おとこもぎもしく語へ 廿オ おとこぐ。拍子 ロ かゝれわぶ事 廿ウ よふ作んぐりハ 廿三ウ
名ふちりきぐ半ぢらひ 廿三オ ゆのえ作ふふ多ふも 廿四オ さぶ〳〵ゆ。くゝも ロ おぢ〳〵
〳〵ぢ〳〵ぢ〳〵 廿六ウ まちよろこびやすぬふを 廿七オ 涙くへぐ見ひのふるこく 廿一ハオ
さゝとさびもく〳〵ぐふ 廿四ウ 殿へまくぐ 廿五ウ くく打さゝぐ 廿六オ 四へまるち
〳〵とをぐ 廿九オ 大納言殿のとハ ロ 大殿のまはえるぶ ロ うりまはえ見びぬいぬ
ちとくの ぐうりよちおう〳〵 ロ十オ うでろ殿ハ ロ あそびあれ〳〵 ロ 西のく ロ三オ おくせぐ殿わるん ロ
うひふのえくおもひ ロウ まぐ〳〵れわど殿ハ ロ十六オ さるべきさ面おきこえてあく
〳〵ふさぶ〳〵ひてなんく ロ十九ウ 五十オ 后々殿ハ ロ よりひのあはさうえふも 五十二オ 八月
ぶぐ云條院 ロウ うつゝぐ殿の ロ 南はもむく〳〵ハ 五十三オ へぐはちうきふかく行。
〳〵〳〵 ロ 松の木 五十四オ 殿家。むちぶべき ロ かのみそふぐ 五十五ウ

玉蔓 中之

かゝるきくなかく父君ふ ロ 京はくをひやくふ ロ ちくせなるて陽を
〳〵〳〵〳〵〳〵ふまくせてえなくんふも 六ウ 命さへくぐ ロ いひるぎくふど仏弟ふ 七ウ
よかくね女ぐも 十オ いふあわせく涙く 十二オ ぐ見ひつぎくけ 十四ウ きくえ
けんまくと 十七オ おくふりほふかく 十九ウ えくへ考く抱ふきくめ 廿二ウ ナレきり 廿三ウ
ちふはれち。紀貫ちふ 廿四オ いふをきくも 廿五オ のくる殿く ロ 父おくぐふきく
〳〵考れ 廿七オ 西系くぐくめなり給へくんくぐ 廿八オ くちくくる 廿九ウ
へぐて涙くるくや 卅オ けくくなきくとハへぐて ロウ 見ひのへぐを 卅二オ くのきく
くの給へて ロ かくきくそめ給てのちハ 卅ウ 見れるかぐちくきふ ロ かくて
つぐくるかくぐの 卅三オ くるづ。ちりて。 卅四ウ 涙くつひ。なり給ふ 卅七ウ をくくる殿

きんのさーうばうごろも　ふあるくで　分八そもはがく　うーや
さはくてそ　まゆーせるうち　ねども　ひぶきはぢ　ふそはがハ　つき給
つるぞちうふ

御書巻

よふりはき　けさふあもあて　やーはくふそうはく　んうろ
きんのつくて　けんのあぐさをと　人うぎわまく　ちみあーあつ
ちくぞんあるく　さうがちふあぐと　分　かくぐ　んおきて　ゆるなく
ろくぐと　ぐ　十オ　まおさを　ふもろう　んめちくばりばりを　十一ウ
人をはりや　第十三オ　第雀院のきくんのえの　十六ウ

胡蝶巻

枝をしめと　花も　第十ウ　岸より　ねうくまりきふまくふ　ふもあつり
ぐろぐふ　ねはくの　ふみて　分　ちびちびして　九オ　ちひいるれ
くくへふはふ　いくよくあがして　十オ　此えをはんくふ　十二オ　をかーうもあ
くもふも　人やうはふて　ちひるふ　ん　ものやうもはり
ちしあひふる　十オ　ちひあーはて　十八ウ　かけをうくく　十九オ　かあひく
もくてぬ　十オ　あはうるくあて　神乃島を　ものーのふ　ぐ　十一オ
くりぎはくてをもてはーはへ　あひおもひ　ものーのふ　ぐ
年へめるひつすーくふ　十二オ　くりはきあくをと　ちくん　十三オ　あやまーぎふくて　くせ
ゆくて　ねうぞうかりる　おうぐのはゆくぐ　ふの　十六オ

螢巻

なきそこえ結ひそめうつりぬ〜やすしめへ〜て〜そ〜へてうを
むつ〜ひさかーら人の人乃法いつ〜へ
結そぐ　おどかそ　ふぎ　ふのたうてハあぐ　かきぬるぐ
の　出結　てりぎふ　てつぐひどもおわやま　むり　内ろうふて　あふ
きみ　ひ　そ　ぬへまぐ　かぞへのうみがわ　かぐ
ふつきて世世乃　やまの　ふ　かろ　いふさき
ろこきん　ようみきを結ひそ　ろぐさと　ゆき　いきろひゆ
なつ　ふ　姓　ものとぐふ　合せさを結ひろふ　そさ　な
か

そこ結ひ乃世

あぐのひぐろわうぐ　かーづき結ふる　そいぐ　ひ
あ　かさもてそさ　ん　や　きぐ　て　おふべを
ふろぐ　ま　ま　て　ふい　て　ふお　ぐり
ぎ　ろ　ぐ　ひ　う　そ　ぐ　ひ　そ　き　ろ　さかー
かー　ふて　ぐ　あぐ　ぎ　あや　ひ　ろ　の　ぐ　せ　て
おろぐ　ぎ　ど　わ　ひぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
わ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
今　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ

かほらうるはしや　まてしやの
ぬいふのえいふもて　えいふちうしやせん
おもしろうんやうてかきめし

かぐや姫出る

かぐやかてそ　ぬいの姫ゑさあ
うしかひわりはら　あんわりやと
秋ふなりふわし

野分出る

つるさゆふ　ふまはえうりも　えるふそ又　ふちひちりてまさわし
ゆまるやうふ　いそふそと　風ふはり　さのこそわおまやし
づりてちんし　ちかしびふへむ　吹ようふそし　中れのこるづ

くるとふそ　つるはんどうてそうわへ
うそうりも　中れのはがそいるそ
みし　中れるそうそうし　おわうとは萩の紫
わどはりるる　四ひとうるうるうあ　吹みぐり結ひ
して　まえんもちあつんぐし　そのついでふいと
えぐるしそふはる

行幸巻

あつうひはし　かもうちはそと　ふ　うしれあはり女そく
うくとえたしぬくはすはもどしう
ぐうちはどのきえうあつくそて　さるふもやし　さやうのをわ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅枝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又対面をなり物を　つひにもこころと　おもてふもかぢと　ひめる八十三才
ひつ〳〵つゝ　なり分十四才　わ〳〵まなり　〳〵あゞ〳〵るると八十六才　ひめへるゆきバ八十七才
西づみ〳〵なつるる　なり物り　ふ云校さてぶ八十八才　つつひつ〳〵やもがび
おそ〳〵海さもふぶふ　けらんじおく〳〵べ〳〵やゝて八十九ウ　よ〳〵つりさかゝき九十才
くうひもみふゝりてそ　ひかをなふてそ　そぐみぶ物と　あぶ　まゝふんのくを物〳〵九十三ウ　まゝと
ゝふゝちゆき九十六才　いちけゝる　つうそび　人ようまゝりて　のゝ地九十九ウ
みるわり物て　いゝ〳〵　ゑもらに身　えきあげめる　よづきてぞうあるかゝ
物このる一才　いゝ　ゑ物　まちつけて　るゑ才　あかゝをゑ〳〵れぞ隆ゑハ　ふゝやと
物ふる七才　一月　風ふさそつて　〳〵つまで　一日物ゝも　のゝとゝんてる八才　さる

ゝこのゝ〳〵と

下巻菓尚

此足〳〵人ゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　名太物の名をバ物ゝん　ゝ物ゝ物
の物名をえて　かゝづうまゝ〳〵七才　えづを物へまぐ九才　んづ〳〵ゝもて　ゝん十才
かゝもふなふう十一ウ　のぐひゝぐら〳〵て十三ウ　今物ぐゝゝ　ぐ　あゝもあ
不字物〳〵も十四ウ　ゝでさせも十六才　ひとゝゝる十七ウ　ぐゝらハゝゝもん
ぐ〳〵ゝや十八才　たいで物〳〵ゝゝ十三ウ　大物の物ゝ物　物の十九才　ゝゝえゝ
らぬ〳〵十七才　つゝぐもをゝ　物ゝぐふ八才　ゝゝへゝ　ゝふぐふ八才　ゝゝゝぐも九才
たもゝぐも十二才　たれる　ゝは十三才　ゝ物ゝ物　たゝるゝ十六ウ　ゝゝふゝゝめゝ十七才　ゝ
ゝゝ物ぐふゝゝハ十八ウ　いゝとゝゝ物ふ物ゝ　ゝぐ二十才　ゝひゝゝふ物ゝ　ゝぐ

ぬふ（百六オ）　そゝ〳〵ひをしてかく（四ウ）　そゝそ思ひのへつと（百八オ）　思ひふる

ふなん（四）　やうふぐそくぬふ（百九ウ）　ゝ思ひそて袖をぬしれる（百十オ）

柏本光

あ形まて思ふ（二ウ）　作るかゝぐ（古ナシ）　ぬゆふ（三ウ）　いふべきてわん（わ古）　四（オ）　あ

ぐえ結へま（ケ古）　ゝびゝ形る（人の古二）　れまゝれの（四ウ）　いぐ　ちきこてち（ふ古二）　も（七オ）　おく

ふべうやゝ（古ナシ）　八（オ）　おゝ思ひ（で古）結ひぬまバ（九オ）　つやゝよ人の（えぬものかまバ古）　袖ゝ（ナオ）　祿バ

むゝいゝきぬまバ（古ナシ）　出おゝゝれ（古ナシ）　おぐえ（四ウ）　まぐむつゝ（又古）　ぐふ（十ウ）　れゝ

ちゝふて（古ナシ）　毛形るめゝう（古ウ）　おとかひゝ（古ナシ）　ゝ（十四）　えんなわれゝぐ（ら古）　十八ウ

ゝ形ゝてちん（古ナシ）　四　ふぬ思き（れ古二）　ゝ（十オ）　おふや思ふも（古ナシ）　四　ゝぐ

いぐ（結古二）　て（十二オ）　ゝ海ゝ袖を（四ウ）　形ゝの海へぐ（ふ古）　十三ウ　ゝゝゝ（ぐ古）　四

よゝつふ（古ナシ）　ひるげき（十六ウ）　おもひ（へ古）　ひるれゝ（古ナシ）　ゝゝ（十七オ）　かゝちん（つ古）　ゝき

ゝふ（ふ古）　四（ウ）　いゝゝをつゝる（十八ウ）　れぞゝと（ぬ古）　のきゝち形（十九オ）　かゝて（ち古）

と（四）　ひきゝゝ（古ナシ）　ゝ（十オ）　形きぬ（ぬ古）　ひんふも（十一ウ）　れ（ぬ古）　やえふも（ち古）　ゝで（十二ウ）

きゝ　ぬ（古ナシ）　みゝき（四）　ぬ（ふ古）　ぬをゝて（古ナシ）　れぞきやう

なゝを（も古）　四（ウ）　怪ゝ（へ古）　ひて（四オ）　のゝえがゝき（ぬ古）　形ゝど（ん古）　ゝゝゝみ

づゝゝ（十六ウ）　ゝゝゝよゝふえ（が古）　思ひゝつ（ぢ古）　まゝゝう（十七オ）　ゝ（て形る古三）　ゝ形ゝ（十八ウ）

例のゝゝゝ結へて（る古）　十九ウ　ほのゝゝ（ゝ古）　ゝゝ（十九オ）

ゝゝゝふも（古ナシ）　まゝ（十八ウ）

槽笛光

ゝぞもおゝゝ結ひ（古）　二ウ　ゝゝゝ形る（古）　四（ウ）　月ゝゝて（ゑ古）　みウ　ゝ（も古三）　ゝて

むとそらんやと　うちいでずして　ものもいはず　ねがうて　人に学ばせて
さるがしく　なつるぞかしと　かくにおもはるもバ　袖をのべ
人ぞふぎしく　ほふ　結へるもちゐるを
へきそる　おもひ　まうけかくさむ　うつくしみて　まぐえう
もとんぬ　ほをへぐうとそんづるを　女ぐしのつくふ　おがし
ゐるとそ

さぐむしの花

ぎやうがうけく　ふさしのぎ　のぞきの　ひふ　ほをと
きちをけいふ　心みをかも　むしをほをけ

夕霧巻

なぐさめ　結ふ　むすびも　ほまつひを　もえむ　めてはえそぶひ結
さぐ　ほやと結つ　人も　うちはびぶる　かぐる　ほ
あぐとそのやふる　しろやもさはぐも　そををばさふも
いそぐ　ぶりをそふよ　ひみぐもつ　ゆくさぐ　ぶ
人をそへとる　そせんうくおぐ　ぐうかん　ぐ
やうふ結をめをあ　きぐかるべ　ちへふ袖をひ
ぶをほの　ぐふもえそき結ぐ　ふくえうぶ　ひ結
へぬをぶふ　かくうほのひつくん　うれうえ結ふ　結
ぐ赤の学まで　かぐうるそんぐう　きえをせ結べき
袖なのるとえなる　ぶをあもてそるめ　ほつふさへやるくんと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今ハのうぐひすのわゞ　十三オ　紅梅の花の下　ゆ〳〵しやうぶ　ゆ
ゑあ
ゑこゝ　十六オ　中将の君の歌　さく　十六オ
をのこゞも　十七オ　おんせ〳〵よ　十八ウ　むらのこゑ　十九オ　一そくおき
ぬ
ゆひて　のこ〳〵　かきつけ　みやゐ　十三オ　ゆうまい
つゝ　ほらんゞ　今日ぞ出ぬる　十六オ

ふぢの花　光

内元服　給て　公卿　西女　一条　院　條院の　れ　つ　ひ　を　ぞ
月ごろの　名仏　六ウ　内光　まゐ　ゆ　ひの人
ふぬ　十オ　立ち　む　梅の　も　三の　十三オ　まら

紅梅　光

あ　を　給へ　二オ　女二人の　ぞ　今の　ち　ふぞ　うつ
ふ　ゆ　ま　八ウ　ゆ　ま　ふ　ゆ　十二オ　ち　や
あ　十三オ　名を　ち　ま　ぐ　や　ほ　十四オ
ふき　ま　ま　ま　ま　ま　ま　十五ウ

桜川　光

ぞ　ぐ　ぞ　ち　ち　ち

うゝみるとせぜど　なのごとうかゝん　さめぬ
ざるふ　わかいてゆ　ゆるふ　ひとつる　命は　松をこゆる
えてそかゝらざるとゝ　ひいつゝ　ぎりしかど　寿り給て後ゝを
ゝかきつのきて　人ゝかわゝちぶ　ものゝむすゝき
かゝちゝ　いゝおう　かゝいひく　のゝて　あぶゝおきてしうど
ひめてゝん　ふゝへを　ひゝがゝとぶ　みゝぐ　ゆゝて　はてゝ
おてふ　ひめへ　孫ども　うちかゝぐ　ゝを給ふるやと　おもひめへてゝぐ
ゝゝて　おゝゝ　きぞかゝゝ　あひめひゝゝを　ゝゝ　ふ
おゝひゝゝ　ふゝふ

格姫巻

ゝせ給ひふゝこれゝゝ　ゝゝゝおかりゝる　まのゝゝ
ひ　人をゝて　ゝひ　ゝゝ給ふ　ゝゝゝむる　ゝぐゝ　ゝと
十はみをぞおゝゝ　ゝる　はてゝつて　ゝて　ゝみの
ゝゝる　はべてはゝ　ゝゝう　のゝまゝ　ゝゝゝ　ゝゝ
ゝむを　きゝふ　はのゝゝ　ゝゝゝぬべき　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝづ
のゝゝ　おゝいて　ゝゝ　ゝて　ゝゝて　ゝゝ
みゝゝ　ゝゝふゝて　ゝゝぬゝゝふ　給ふ　ゝゝ　おゝ給ふ　ゝふゝれて
かゝと　給ふゝて　人ゝゝ　ゝゝて　ゝゝ　ゝゝて　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ
ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

永 ウ ひふふくべき 日 おもひあへるつゝ 九才 ゝるゝ ぞゝ ハあ
ら ぞ 十一ウ

椎本巻

久しくなりにくるゝや 四才 ゝるゝ ちして ウ かへりえのゝ ん ゝ 七ウ
ゝ みつゝふ 有 ゝ ゝ 八才 かゝ 永 人 ん ゝ 日 ゝ ぢ ゝ ゝ ゝ の ふ ゝ 九才 一 ゝ
栄 住つき 日ウ なゝ ゝ ゝ 人 ゝ 又 日 かゝ ゝ べ ゝ ゝ ふ 十ウ ゝ れ ぢ ふ や ゝ ゝ て 十二ウ
三 え い ゝ ゆ ゝ ゝ 十四才 ゝ る べ き ゝ ゝ ぢ ゝ き ゝ え 十五才 い ふ ゝ ハ 十九才 か 係
ゝ ふ ゝ 係 ゝ 日 お ゝ ゝ の ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 十八才 ひ ぬ ゝ ゝ ゝ ば 日ウ 係 の ゝ ゝ
や ゝ 十二才 な ゝ ゝ ゝ る ゝ ぢ ふ 限 日ウ ゝ ゝ ゝ を や え ゝ 出 十三ウ お ま
ふ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 日 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

てゐてもいめ〜　人も行くてあやんふ十九オ　わ〜〜め給へん日　ま
えもゑひて日　えやすぬとづわ日ウ　そわることもかふそと廿オ　えをりもつ
給へ〜〜ん〜　廿六ウ　ゆく〜ゆつ〜ゆ給て日　ふ〜給てをさるそろ〜〜る　廿七ウ
えゆひそ給つまうぐるまで　廿八オ　ゆし給あそん日ウ　きわぐ〜をえ、ひ出　廿九ウ
ゐそれ給まぐ〜　卅ウ　日ぐ〜ハんゆるく〜日　いそぎ出給ぬ　卅一オ　ま爲ぐ〜ゆ
ひ給ふ日　ゆををゆ〜〜ん　卅二オ　えおそりもあふまぐ〜日　かのれんぐどもハ日ウ
えづ〜ゐそ給るや　卅三オ　きそ〜ゆ〜ん　卅四オ　ぐ〜つゆてバ日　えさやごりふてえ
やひ　卅六オ　ゆ　まわて　卅七オ　ゆひゆ今ハ日ウ　ゆそ給へ〜　卅九オ　うちを
てゆひそ〜て日　これそのの神のいそ〜　四十ウ　ざそやくゆやゆゆ給ふまど　四十一ウ
ぐふこ給〜〜給〜　四十二ウ　つゆまそ〜ゆそちろ加〜　四十三ウ　おく給び　四十七ウ　老爲ふ〜ろまど

さそふ〜　四十八オ　きそうハつ〜ぐそ〜ち　四十九オ　ゐそそ給て日ウ　おぐ給ゐそ　五十オ
男はれさ爲ぐ給りなく　五十一ウ　爲ゑやいふ　五十二オ　此ゐをぐ〜ぐ日ウ　いそぐ〜ち
ゐきん　五十三オ　ちびき給ゆて　五十六オ　さいへぐいぐ〜ち〜日　ゐをぐふわ
かそ給爲　五十八オ　ゆそうハわつそふそん日　さるべきよそ給ん日　ゆそ
ゐ給日ウ　ゆち出ゐそ　五十九ウ　おそ〜きそふおゆ　六十オ　そ給
ぐ〜〜さそ　六十一ウ　そわ給きさ　六十二ウ　そそろそハ　六十三オ　さそそろて日ウ　おそゆ
ち爲ゐ給日　ゐ〜きかわ　六十六オ　ゐ泉ゐの姿　六十七ウ　ゐらんぞるふれ
ぐ給　六十八オ　ゐふそ〜ちやるきん　七十ウ　ゐ給るやうなん給ぐ　七十六オ
そ〜給ちぐきゆ〜ちそて日ウ　金給ぐさふて　七十七オ　ゐ給へゐ給て日　不ゐ
ふよゆを　七十八オ　ゐ給ぬ人ゐてゐぐ爲べ〜　七十九オ　ゐんつそろ爲ふちん　八十オ

いふあへるき　かぐやきうり

平蔵光

なぐさへふるる月　いやめふるん

やーく　ゆく　えべくれど　ひ　かめのきふ

やどの本光

うへふもおがーぎ　三オ　ふもとの　ようす

きの　ようすとーと　ふて　六オ　ようす

もの　七オ　なえげるとおがー　九オ　かへるべき

とかーと　もてかー　十二オ　旁ちみちる　十六ウ

ふもとて　十九ウ　ふもとて　人ーこん

そ作り　女房がどそ　人ーへな

ともぐ　えぬ　うち

なりてませ給そ〻 日 まちはまゝ ぬる 日ウ いひ出みえぬあもがて 六八ウ
まち出てもおわ 九六オ 根岸あそさつそ 日 ざ〻もうそ〻 いうねざ古 うとバ 日
かやうおるをわ 日 ゆ人とひす 四オ えおもてぬぎれ 日 いくほし
ゆ〻と思ひ 日 人のうへぬても 六ウ 根岸おわりてぞ 日 いとう〻 後そ〻は
つる 日 ひそ〻んとそ思ふ八 四三ウ えつれ事まぞいで給 日 いそがし〻まうで
給て 四五オ そ〻ゆ〻ゆ給へど 日ウ かどハうぢりまて 四六オ などの中みえ 日ウ
ん思ひぞ〻 四六ウ ら〻ふとぞかの〻ゆ 四六ウ まちぞか 四六オ
からんとそ思ふ八 日 ひそ〻給へる 四オ れ 四 うみ給へりぬ 日ウ 先〻
とん給ぢし〻ぞ 四七ウ さるハ〻ぢの 日 ぬ〻まし〻ぬのふ 四七オ
ま〻〻思ひ〻〻ん 日 わどお 四三オ いりたかり おぢし 日 ことなる 花

ぢ〻きるこそ 四五オ ひぶんのみぐ〻ふ 四十六ウ ひてふら〻〻げ 日 ひつる 四十六オ
おぶいぐそ〻さもや 日 んのゆ〻べきん 日ウ うちそ〻べくもそ〻ひ〻ざ
ひそり 四十九オ いふべきかそもなきを 五オ ゆ〻ふそ思ひむ 五十一ウ そり
ぎ給へてさが〻給へど 日 おそもる波きく〻ふも 五十二ウ なえぐそ〻そ〻ひ〻を
と思ひやて 日 ひそ〻ぐりふ 五十三オ そ〻ぬちがひハ給り 日ウ
むつまし〻ぎ給ふ 日 いそ〻そ〻と 五十四オ ひぐ〻ふそ〻ろき 日 人えあや
しかるべし 五十六オ みるひ〻〻しぬ〻ひるぬ〻〻ふ 日 さ〻いでさせ給
て 五十七オ ぎふぢ〻 日 あさえ〻〻〻う 五十八オ おぐきさぬふさよう 日ウ
ひる給ぐ〻ものびやふ 六十ウ ひぶて給り 日 ゆもかきそ〻て 日 いとほし
ふ〻ふ〻う 六十一ウ くていまそ〻〻ちかく〻ぢ〻りそて 六十一ウ 号やひ〻〻んそと 六十二オ かぐそ〻り

みてん　同じくハ　六十三才　さまで　ふべきみち　さがりめきそなり　まバ　六十五才
ほ〳〵　海〳〵くて　なんと　わまり　川づ〳〵　六十七才　れんそくべん　そ　ほんの
おわを　ぬ　ぬ　ぬ〳〵　六十九才　そ　乗　ぬ　ぬ　ぬ　の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
と　ぬ〳〵　きゝ　ゆ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ち〳〵　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
を　ぬ　さやう　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ

そぐさぬるる日 ゆるとはどぬてぐぶ日 ぬよわふちぐ先てふいりん 九十八ウ
かく形んるも第し日 志ぎ本洋紀て 九十九ウ

東宮光

ありわぬべきを 三オ 人もつて形わ。ふれのわ 四ウ 仏のちりがる況を みウ うかびるる
むるる成つるへ 六ウ 色絵つるむるも。きく絵 七オ さやうけわるわふ 四ウ 四ぐぐく
ぷちるく ゆる 四ウ 人のいひ寄とべき 四ウ 中ふつるるをなん 八オ 人ふそらるるも 四ウ
ぬよりていふやうこの月ぐろ 九オ 月をえからひていつしるく 九オ 見ふべき人を ぐ十オ
此人の見給へんるる成 十オ あるさぐと形んの絵ひつる 四ウ なるさ絵ひるん るて 十二オ
なるんるやす 四ウ よりつぐ。まりぬるるけ 十三オ かのんぐるえ ひるふあもし
えぐ見給へるんみ 四ウ なり絵ありぐ形りの 四ウ 絵ふんるるみふもあふけ形

くるる 十七ウ 先ぐるかるん れ形ふよけ れ むさめるば 十六オ らえぐるら色るかど 四
見いまぐと見ふふいるぐ 十六オ あるるるむるるる見 四 るちのるる行わる 四ウ
えるなんいふふるて 十七ウ 性乃るるちふ 十三オ 四ウ 見るるるる紀人先のる 四 ふよりの
あるぐ形ぐ 十四オ 見ひよりる行る形ぐいふ 十六ウ るりるて色え 十七オ あきて絵へるし
光ぐふ 四 車よりあり絵ふ系るる 十九オ 系るるるるるるの 四 あるるは
見ひふるるまぐう 十ウ るるるるなぐ洋見へぐ 十ウ 見ふふもあるるの 十三オ んふ
るるふるるるて、 四ウ うれるるる色ふふるる 十四オ あるるるる先てるて 四 なふる
ぷるるるる形る 十七ウ 色るるるひぬて 十九ウ ふぐえるる せ絵るめ 十二オ 一形の色るへを 四
絵んぐ行る色。ぷるきるハ 十二オ あきふ行るる色を 四ウ あぐし行。るびるぐいる 十三オ
見るもてぐいるるぐぎふ 四ウ こ形るよけるるじのふる 十二オ 光もけるう 四ウ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

立つり　袖垣しきる　沈　さて　おそ　そや　そうろうのどう　ようび　あの　ひあって　れ　すきも　かつを　いとかほそひも
いとうぐ　れんの　ふもかつを　ふもきぐ　ふて　ふん
ゆいふ　倒の人　でる　てん　人や
ん　の人の　かなん　ふゆそ　ふて　月いと　倒のいとぐと
めがくきハ　きるふやそ　作り　きる　ぐ　つり
后　あの　させ　かしあって　ふち　人ちみ
ばみて　けれ　みちふし　ふん　ごこぐ　も　いろい
ろふんろうふ　れる　ふ二三人　倒のれ　人　ふせふり
むふがりぬ　さつぐ　ぐ　えひ　ふ　こも　おそふ

れ　命　まで　ハ　あづし　いとぐ　おきて　絵
ひそ　おそ　ふ　ふる　ぐ　やそ　そて　つぎふ
絵へば　よ　ぐ　ハ　でハ　ぐ　ふ　ふりおきふと
ふむよ　つ　ぐ　ふる　ふを　ふ　絵　ぐ　ふ　ふ　ふ　ふ
れんづひきせ　絵つぐふん　ぐ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
きふふをあ　今　ふ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ふふ　ぐ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふをやぐて　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

情歌　花

ふふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

手習花

ろへるものどもの　ナ五オ　きづかれぬ　ナ六ウ　まゐるをりもまつる　ナ
おもやせもてゆく　ナ七オ　うちやすらうつもどる　ナ八ウ　ねんをもそへ　ナ九オ　あまりふる
をだくさと　ナ九ウ　あはのこと　ナ十オ　今ハ限とおぼえそへ　ナ十ウ　うちち
のこゝろ　ナ十一オ　風のさとがしわうつる　ナ十二オ　とのこいへどうちつをふ　ナ十三ウ　おもひ
ゝもとゝまて　ナ十四ウ　かゝふるちやうし　ナ十五オ　今ハまるべきこゝろ　ナ
んなせうるこかゝ　ナ十六ウ　ゆびんなるゝわかし　ナ十七オ　つやしくそへる　ナ
ものゝ　ナ十八ウ　人よ　ナ十九オ　ゝみ　ナ十九ウ　らんぶ　ナ二十オ　せむとば　ナ二十一オ
出給ひ　ナ二十一ウ　かんとゝふ　ナ二十二ウ　出つゝをつゆり　ナ二十三ウ　あやまきこゝとせいし　ナ二十四ウ
ぼまちかゝと　ナ二十五オ　かゝちハ　ナ二十六ウ　ゝまらふ　ナ二十七オ　えのゝかどのやうふ　ナ二十七ウ　みる出
ゝもちゆるを　ナ二十八オ　いづハきん　ナ二十八ウ　時ハもぐ　ナ二十九オ　あゝまゝる　ナ二十九ウ

ひきゝる　ナ三十オ　人ゝ　ナ三十一オ　ぬ給ゝ　ナ三十一ウ　今や
ゝる今やゝる　ナ三十二ウ　中ふゝそハゝ　ナ三十二ウ　ゝ出ぬ　ナ三十三ウ　ひ
ゝぬ給つゝ　ナ三十四ウ　人よ　ナ三十四ウ　なやまゝ　ナ三十五オ　ぬ給ん　ナ三十五ウ
給ひ　ナ三十六オ　月ごろハまゝの給ふ　ナ三十六ウ　ふるなん　ナ三十七オ　ゝ給ん　ナ三十七ウ
給ひ　ナ三十八オ　ゝ給て後ち　ナ三十八ウ　今まで　ナ三十九オ　もいきゝるべき　ナ三十九ウ　ちゝ給ひ
ひ給へらるゝを　ナ四十ウ　ひみづ　ナ四十一オ　ゝ　ナ四十一ウ　いきゝる　ナ四十二オ　ゝ
給ふ波のゝぞゝ給ふ　ナ四十二ウ　ゝみ給ひ　ナ四十三オ　ゝ給ひ　ナ四十三ウ　ゝ給ん
給ひるんのぬゝ　ナ四十四ウ　ぬゝ給ひ　ナ四十四ウ　ぬのゝ給ふ　ナ四十五オ　ゝ給ひ　ナ四十五ウ　給の　ナ四十六ウ　さもやかゝ
ひ　ナ四十六ウ　かの人　ナ四十七ウ　ゝ給ふ　ナ四十七オ　のゝ給ひ給ひぬ　ナ四十八ウ　ゝ給ふ　ナ四十八オ　給ん限ハ　ナ四十九オ
給ゝ給ふ給ふ給ひ　ナ四十九ウ　ゝ給ひ給ん給ひ　ナ五十オ　給へて給ん給　ナ五十ウ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もろ〳〵。そや〳〵さもさまるかや。今は本ごといづもも〳〵世うも
いとおかうゝ。朔月なかゝ本ゝ。ばかり。世ゝるゞひ一の本ゝ。くゝ
うき。き〳〵ものを。又のかゝ本ゝ。う。とかき。い〳〵かゝる〳〵ゞひ。ゞひふ
異(コト)なる〳〵ものふして。えまゝること。又ゝひてを。ゝゝて。ゝを
ゝるも。ものゝ。ゝゝと。ゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ

此くるびき上の文にて有るを閑月抄本なんとを伝
聞てなどゝ書る所多し。文ごゝろつるべきそうしをなどゝ書る
所もあり。さてあわゝとおぼしとかうやうとかやうとかとかそと
いうでというでうというでうつゝてそそそそいゝもぐゝとそぐゝとかろゝ
とかるゝとそぐゝとそえとそうえとこまやうとこゐうゝくんどそくつゝ
てゝふんどてゝふるじてゝこゐいえゝゝゐんゝゝ行ぶつゝ行んゝ
ゝなれゝなるゝゝ多の事をかつゝゝゝゝ。こゐゝゝゝゐぐひ本
ぐゝゝぐひうかゝるゝいづゝゝふてゐゐなをし。さて又閑月抄文字
のきぐゐろきゝゝゝゝかゝゝきり。本の対西の対をの対を書しかき。
かゝゝぐゝゝみう抄ぐのかを。かゝゝ出仮彰し。本性を本上。几帳を本丁

ゝかゝゝゝぐひゝゝうちゝをかぐきゝふて。ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。又掟
のゝゝゝゝ。置てゝんゝ得ゝゝ所ゝゝ。掟ゝ。俗言ゝゝゝ。戯言ゝのゝいふ
を雅言ゝゝゝ。用言ゝゝゝゝゝゝ

よもべきるぎしさるハ此和ごくりのこゝあもうこゝ。あるこゝ。此堂民

よもろくこと和くるもるもくぞうこゝ。